



若者“と”創る、企業の未来。



若者“が”創る、企業の未来。

長期実践型インターンシップ／伴走型採用・育成支援のご提案

一般社団法人
ワカツク



企業の未来を担う 「若者のチカラ」を育てる

持続可能な社会の担い手を育む東北に



ワカツクは、2011年3月11日に発生した東日本大震災を契機として設立された団体です。当時、私は各地のボランティア活動に学生をマッチングしていました。依然として泥掻きのようなボランティアが必要だったころ、日本の市民活動をリードしてきた故・加藤哲夫さんからもらった「被災地では、これから課題が見えなくなってくる。課題の本質を見つけられる若者をどうやって育てられるかが鍵だ」との言葉をきっかけに、ワカツクを設立しました。

地域のNPOや地元企業の課題解決プロジェクトに、数多くの若者が参画し、課題を見つけ出す経験をしています。ワカツク設立時は10も無かったプロジェクトが、2019年春には東北全体で100を超えるプロジェクトが立ち上がり、そこに200人以上の若者が挑戦することになりました。

持続可能な地域社会を実現するため、分りにくくなった課題を見つけ出し解決することができる「若者」が育つ現場が必要です。経営者自身がワクワクする課題解決のプロジェクトがその現場となります。

01

WAKATSUKU

長期実践型 インターンシップ



企業“と”未来をつくるプロジェクト

新たな販路を
開拓したい！

新商品開発の
アイデアが
社内から出てこない！

社長の想いや
アイデアを
形にしたい！

企業の未来を支える
新規事業を
立ち上げたい！

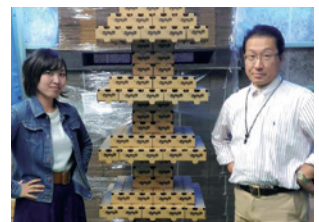


CASE 01 有限会社佐貞商店 様 【実施期間】 2017年4月～2017年10月

昭和25年創業。塩釜市に本社を置き、段ボール製品の製造・販売を主としている。社員数17人。

2017年、段ボールとブロックを組み合わせた自社製品「段ブロック」を開発。

※掲載情報は2019年1月現在



BEFORE 当時の状況（2017年）

自社製品「段ブロック」を
事業の新しい柱にしたい！

- ◆ コンセプトや価格が決まっていない
- ◆ 新規顧客獲得、一般顧客に向けた販売の仕組みを作りたい
- ◆ 社内に段ブロック販売を担う人材がいない。社長自身が営業を行っている

ACTION プロジェクト・サポート概要

渡辺 琴音 さん インターン参加
宮城学院女子大学3年生(当時)

- ◆ 段ブロックイベントの企画構想・場所の確保・運営
- ◆ 漠然としていた「教材」としての展開に、環境教育としての可能性を発見
- ◆ 行政や企業、NPO法人に向けた提案用のストーリーを確立
- ◆ インターン生の活動を見て、社員もイベントの手伝いを率先して行うように！

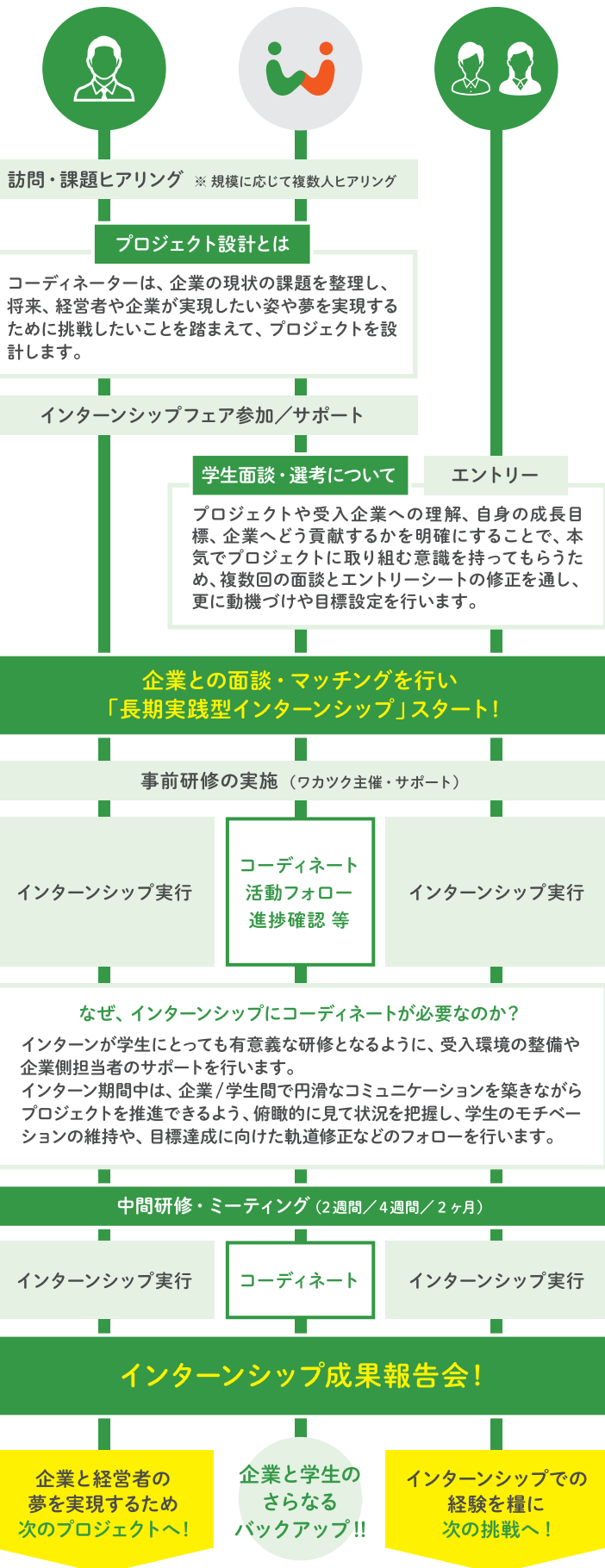
AFTER プロジェクトの成果！

イベントや営業で売上UP
社員意識の向上も！

- ◆ 商品：コンセプト・価格決定／レシピ開発
- ◆ 販路開拓：イベント実施（20件）／イベント開催ノウハウの蓄積／BtoB売り先の確保
- ◆ 売上：約20%UP
（初年度売上：約180万円）
- ◆ 社員の变化：段ブロック事業における社長の意図を理解／率先して事業を引き継ぐように！

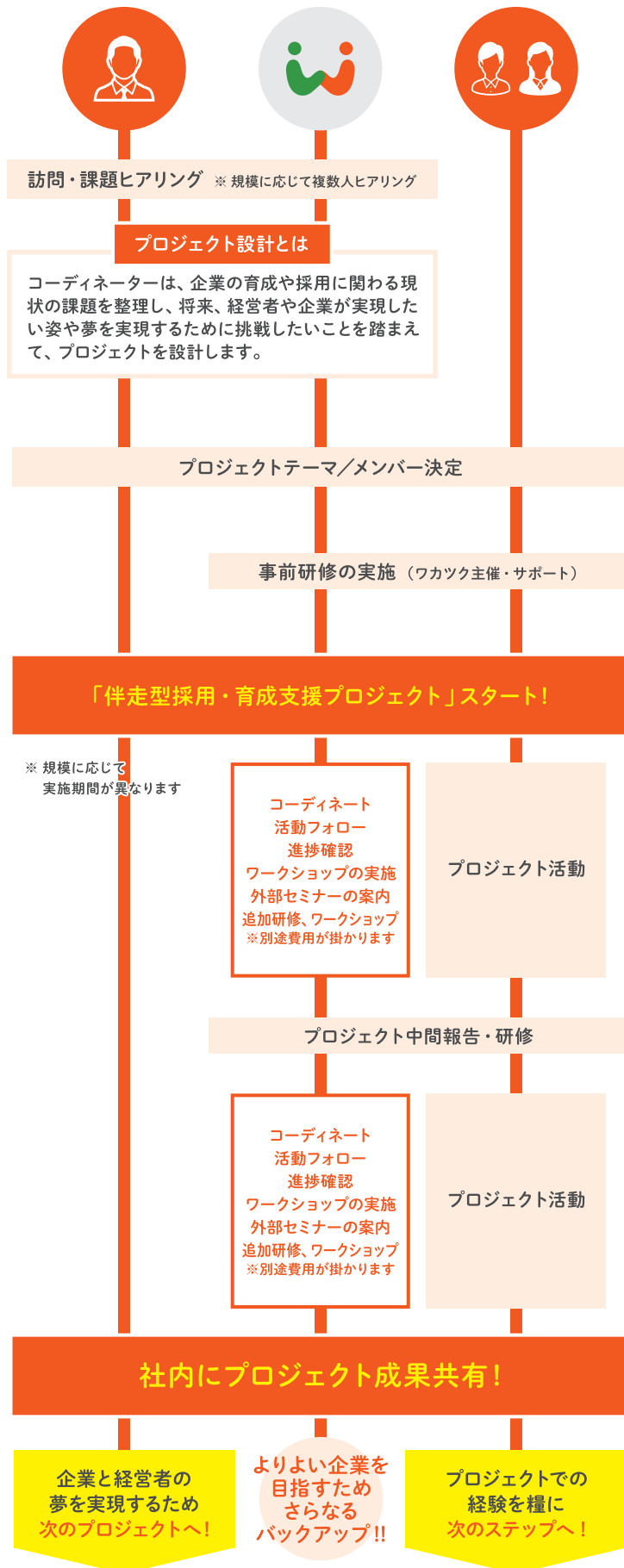
長期実践型 インターンシップの流れ

企業
(経営者/担当者) ワカツク
コーディネーター 学 生



伴走型採用・ 育成支援の流れ

企業
(経営者/担当者) ワカツク
コーディネーター 社内/外部人材



伴走型 採用・育成支援

企業“の”未来をつくるプロジェクト

若者に選ばれる
企業になりたい！

社員と一緒に
働きやすい
職場を作りたい！

自主性・主体性を
持つ社員に
育てたい！

社員の挑戦を
受け止め
人の育つ企業風土を
作りたい！



CASE 02 株式会社ユーメディア 様 【実施期間】 2016年8月～2017年2月

昭和35年創業。仙台市に本社を置き、広告・印刷・プロモーション事業を主とする。社員数約140名。
2008年より、育児との両立支援をスタートとしてワーク・ライフ・バランスを実施するも、
全社的な取り組みとして展開することができていなかった。

※掲載情報は2019年1月現在



BEFORE 当時の状況（2016年）

部署ごとに、実行率、
取り組みへの温度差があった

- ◆ 140名の社員がいるため、全社の取り組みに展開するには、部署により異なる課題に向き合っ丁寧に進めていく必要があった

ACTION プロジェクト・サポート概要

合計7回のプログラムを実施

- ◆ 第1回：キックオフ、グループディスカッション（課題の抽出、テーマ設定、行動計画表作成）
- ◆ 第2～6回：行動計画の見直し、再設定、進捗確認、振り返り、外部講師からのフィードバック
- ◆ 第7回：成果発表

AFTER プロジェクトの成果！

- ◆ 取り組みについての議論がスムーズに行える体制ができた
- ◆ 他の委員会・社内施策も交えながらの取り組みへと変化した
- ◆ 幹部会議の場で社長から発表があり、全社に認知が得られた
- ◆ 取り組みにおける方向性としてダイバーシティビジョンと取組施策が決まった



一般社団法人

ワカツク

〒980-0023

仙台市青葉区北目町4-7 HSGビル内

Tel : 022-721-6180

Fax : 022-721-6181

E-mail : info@wakatsuku.jp

営業時間 : 平日 9:30 ~ 18:30

<http://www.wakatsuku.jp>



@waka2ku



wakatsuku



JR「仙台駅」より徒歩約15分

地下鉄南北線「五橋駅」より徒歩約10分